

開催日： 平成 30 年 6 月 7 日（木） 曇り	開催テーマ： ～東国花の寺巡り～
開催場所： 山ノ内・扇ガ谷	記入者： 大門 利晴
参加人数：寺社を巡る会員 男 27 名 女 6 名 計 33 名 ビジター 男 0 名 女 1 名 計 1 名 合計 34 名	
<p>実施内容</p> <p>コース 北鎌倉駅～円覚寺～雲頂庵（特別入山）～山ノ内公会堂（昼食）～東慶寺 ～浄智寺～海蔵寺（解散）</p> <p>まずは円覚寺。山門前のカエデの大木が新緑に映えて見事であった。さて次の雲頂庵。もとは禅宗では五山、十刹に次ぐ寺格「諸山」に列せられていた大崎山 長勝寺の塔頭であった。永享の乱（1438）で廃絶されたが、江戸時代に入り円覚寺の塔頭列に入った。時期は過ぎたが春にはボタン、ミツバツツジ、シダレザクラが見事とのことである。</p> <p>次、東慶寺。漠然と「駆け込み寺」と記憶していたが、なんと、蒙古来襲の国難を乗り切り 34 歳の若さで亡くなった北条時宗の妻覚山志道尼が無学祖元に師事、子息貞時を開基として創建した。その創建の際覚山志道尼はその子貞時に「縁切り」寺法を説いて勅許を得させた。「縁切寺」の由縁である。その後名門出身の女性が尼となり歴代の住持を務めてきたことで格式の高い尼寺の寺格を保ち「縁切り寺法」を存続させてきた。格式の高い寺あることが広大な寺領を有していることに伺われ、またその証左に名門出身の女性が尼となり歴代住持を務めてきたことにも見ることができる。</p> <p>鎌倉の花の季節は逸しているとのガイドさんの説明であったが、なんのなんの、ハナショウブが迎えてくれ、本堂裏には可憐なイワガラミが咲いていた。</p> <p>さて、浄智寺。参道を上ると「寶所在近」といかにも禅僧が言いそうな扁額。なるほどそうかと思いつつ杉林に囲まれた鬱蒼とした参道を登ると唐様の鐘楼門、鎌倉では珍しい。曇華殿へ行けば木造の三体の仏像、阿弥陀・釈迦・弥勒の如来で過去・現在・未来の時を代表しているらしい。散策すれば茅葺きの書院の庭、手前には様々に花の生い茂る庭。今日最も気に入った風景だ。心洗われ、ふるさとの曲がり屋を思い出した。また境内には鎌倉一のコウヤマキ、ハクウンボクがあったようだが残念ながら見逃してしまったらしい。</p> <p>最後は海蔵寺、臨済宗建長寺派の古刹。もと真言宗の寺跡宗尊親王の命により七堂伽藍が再建された。元弘三年(1333)新田義貞による鎌倉攻めの際消失、鎌倉公方足利氏満の命により上杉氏定が再建した。以来、禅宗寺院となり扇ヶ谷上杉氏の保護を受け天正五年(1577)建長寺に属し今日に至る。ここの本堂と庫裏に挟まれた石畳沿いの庭園に紫と白の菖蒲が咲き乱れ見事な光景だった。これもまた今日の収穫。</p> <p>仏教と花の関わりが深いこと、そしてその歴史の深さに改めて知らされた「寺社巡り」であった。</p>	
<p>参加者の状況・意見等</p> <p>梅雨に入った？が暑くもなく寒くもなく心地良い一日だった。</p>	
<p>次回の予定</p> <p>7 月 5 日（木）10 時 きらら鎌倉（鎌倉駅東口） 鎌倉幕府三遷と座学</p>	